

福岡県新型コロナウイルス感染症対策本部
(事務局：保健医療介護部がん感染症疾病対策課)
担当：井手、馬場
直通：092-643-3343 (宿泊療養担当)

宿泊療養施設における中和抗体薬の投与（いわゆる抗体カクテル療法）について

新型コロナウイルス感染症の軽症・中等症患者向けの中和抗体薬の投与（いわゆる抗体カクテル療法）は、2021年7月特例承認をうけ、入院患者の方を対象に、県内の医療機関で使用されているところです。

今回、県が確保している福岡市内の宿泊療養施設（博多グリーンホテル2号館）においても、この治療を本日8月16日から実施することとしました。これにより新型コロナウイルス感染症の重症化を予防し、早期の回復を目指します。

○実施体制

福岡県医師会の全面協力を得て、JMAT医師1名、看護師2名による、中和抗体薬投与を専門としたチームを編成。①対象者の選定、②本剤の調製、③対象者への投与、④投与後の副作用に対する観察等を行う。

○対象者の選定

新型コロナウイルス感染症陽性者のうち、以下の重症化リスク因子を少なくとも1つ有し、酸素投与の必要がない者で、以下の投与の要件に適応し、本人の同意が得られた方を選定する。

<新型コロナウイルス感染症陽性者の重症化リスク因子>

- ①50歳以上 ②肥満（BMI 30以上） ③心血管疾患（高血圧含む）
- ④慢性肺疾患（喘息含む） ⑤1型または2型糖尿病 ⑥慢性腎障害（透析患者を含む）
- ⑦慢性肝疾患 ⑧免疫抑制状態

<投与の要件>

- ①投与日が発症日から7日以内でワクチン接種歴がない ②本剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴がある者は禁忌 ③妊婦または妊娠している可能性のある女性、授乳婦、小児等、高齢者については、慎重な検討が必要

○薬剤の効果と副作用

新型コロナウイルスに結合する「カシリビマブ」と「イムデビマブ」という2種類の抗体を混ぜ合わせ、投与時間20分から30分の点滴で行う。ウイルスに2種類の抗体を結合させ増殖を抑制するもので、海外臨床試験成績の速報値では、入院または死亡のリスクが70%低下との報告がある。

投与後、副作用が現れる可能性があるため、しばらくの間、その場で観察し症状がでてでも医師・看護師がすぐに対処できる体制を整える。

<主な副作用>

蕁麻疹、そう痒、紅潮、嘔気、嘔吐、下痢、呼吸困難、喘鳴、めまい、血圧低下、意識消失、アナフィラキシーショックなど